

論文要旨

ネパールの初等教育においては、就学率は大幅に上昇している一方、様々な理由により中退に至る児童が数多く存在する。また、早期に中退した子どもは非識字者となることが多いため、個人のみならず、社会・国家にもマイナスの影響を及ぼしている。本研究の目的は、①中退リスクのある児童の特徴は何か、②学校と教員のどのような要因が児童に中退したい気持ちを起こさせているか、③教員－児童のコミュニケーションがどのように中退リスクに影響しているのか、④友人（学校内外の）のどのような要因が児童の中退に影響しているか、⑤中退率の高い公立学校と低い公立学校間の差は中退リスクに影響しているか、を明らかにすることである。

2014年～2017年までに行った現地調査では、量的・質的な調査方法を用いて、ネパールの盆地（盆地とは、ネパールの首都カトマンズ区、パタン区とバクタプール区を合わせて言う言葉である）において①公立学校の児童に対する質問紙調査、②校長と教員に対する半構造化インタビュー調査、③中退者であるストリートチルドレンに対するFGD調査及びケーススタディを実施した。

これまでの研究ではネパールの子どもの中退に関して重要な分析が行われているが、盆地の公立小学校を対象に、現在在学中だが中退リスクのある児童の特徴に着目した研究や、学校や教員、友人が児童の中退リスクに与える影響に関する研究はみられない。そのため本研究では、中退リスクのある児童の特徴を明確にする学術的な研究を行った。また、学校や教員、友人が児童の中退リスクにどの程度影響を及ぼしているかについても明らかにした。本研究の結果によって、中退リスクのある児童の特徴と、中退リスクに影響している特に学校や教員、友人に関する要因を参考にすれば、中退リスクのある児童を識別することができ、一人ひとりの児童に応じた特別な配慮を与えながら、彼らが中退に至る前に、相応の対策を考えることができよう。

調査結果から、8割以上の児童は貧困世帯に属することが確認できた。また、約23%の児童は中退リスクにあったことが明らかになった。中退リスクのある児童の特徴として、①教室内で最も後ろの方に座る、②友人数が少ない、③教員や友人との会話がな、④学校のグループ活動に参加しない、⑤教員と話すと緊張するといったことが明らかになった。また、学校や教員が児童の中退リスクに影響する要因は、食堂の欠如、期末試験、英語の問題、学習方法、教員の欠席といった要因に有意が見られた。さらに、学校内外の友人関係も中退リスクに関係することが明らかになった。すなわち、本研究からは学校、教員と学内の友人との関係、学外の友人との関係いずれもが、結果的に中退リスクを高める可能性が示唆された。